

## 指導部だより 第19号

明けましておめでとうございます



新しい1年が始まりました。みなさんは、2024年をどんな年にしたいですか？

今年の干支は、「龍」です。中国では「**運氣上昇、富と幸福をもたらす**」とされており、干支の中で最も縁起がよいとされています。

龍は、体が蛇で、4本の足、2本の角、耳、ひげをもち、全身をうろこに覆われている神話や伝説上の生き物で、弥生時代の終わりごろ中国から伝わりました。

龍は日本列島の形ともいわれ、日本は古くから龍が宿る神秘の国とされてきました。また、主食であるお米をつくる稲に、恵みの雨を降らせる水神様として祀られてきました。龍には様々な意味が込められており、次のことから縁起がよいと言われています。

- ・昇り龍はすべての運氣が上昇する。
- ・天から地上に降りる降龍(くだりりゅう)は幸福を届ける。
- ・願いを叶える如意宝珠という玉を持っている。



また、龍神様が守護としてつくと、人生が大きく好転するとされており、過去に事を成し遂げた人の多くが龍神様のご加護があったと言われます。龍神はこの世に姿を見せるわけではなく、エネルギーとして存在し、人にそれを分け与えます。それによって、氣の流れに変化が起き、人生が良くなっていくのです。龍神様は、上昇志向の高い人やポジティブで前向きな人を好むようです。私たちも龍神様のご加護にあやかりたいものですね。

さて、竜(龍の略字)の字が入っている四字熟語と言え、<sup>がりょうてんせい</sup>「画竜点睛」です。

「<sup>がりょうてんせい</sup>画竜点睛」とは、物事を完成するために、最後に加える大切な仕上げのたとえ。また、物事の最も肝要なところのたとえです。中国<sup>りくちよう</sup>六朝時代、<sup>りう</sup>梁という国の絵の名人<sup>ちようそうろう</sup>張僧繇が竜の絵を描いたのですが、<sup>ひとみ</sup>睛を描くと竜が飛び去ってしまうと言って、<sup>ひとみ</sup>睛を描かなかったそうです。人々はこれを嘘だと言って信じず、無理やり<sup>ひとみ</sup>睛を描き入れさせたところ、<sup>ひとみ</sup>睛を入れた2頭の竜がたちまち天に昇っていったという故事成語です。



3学期は、1年間のまとめの学期と言われます。新たな気持ちで1日1日を大切に過ごし、画竜点睛を欠くことなく1年間を締めくくってほしいと思います。昇り龍のように運氣が上昇し、幸福な1年になるようにしていきましょう。

参考資料:縁起物の一とのホームページより

